

新学習指導要領に対応した学習評価 (小学校 音楽科)

文化庁

参事官（芸術文化担当）付教科調査官

文部科学省

初等中等教育局 教育課程課教科調査官

志民 一成

目次

1. 指導と評価の一体化のポイント
2. 題材の評価規準の作成
3. 指導と評価の一体化の具体

「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料【小学校 音楽】

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>



「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料

小学校

音楽

令和2年3月

文部科学省
国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research
教育課程研究センター

1. 指導と評価の一体化のポイント

- ① 音楽科において育成を目指す資質・能力と評価を一体的に考える
 - 音楽科において育成を目指す資質・能力と評価とを一体的に考えて題材を構想。
 - 学習指導要領の目標や内容，「**内容のまとめりごとの評価規準**」の**考え方等を踏まえ**て学習評価を進める。

<詳しくは以下を参照>

- 「初等教育資料」2020年2月号特集 I 論説事例⑥
- 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校・音楽】』第2編 及び第3編第1章

1. 指導と評価の一体化のポイント

資質・能力の三つの柱と新しい評価の観点

知識及び技能

知識・技能

思考力, 判断力, 表現力等

思考・判断・表現

学びに向かう力, 人間性等

主体的に学習に
取り組む態度

何ができるようになるか

何が身に付いたか

1. 指導と評価の一体化のポイント

資質・能力の三つの柱と新しい評価の観点

知識及び技能

知識・技能

思考力, 判断力, 表現力等

思考・判断・表現

学びに向かう力, 人間性等

主体的に学習に
取り組む態度

学習改善・指導改善

何ができるようになるか

何が身に付いたか

1. 指導と評価の一体化のポイント

② 指導と評価を結び付ける視点

1. 内容のどの事項を題材の学習として位置付けるかを検討

- それらの教材や活動を通して何を学ぶのか、という学習内容を焦点化するとともに、**評価場面の精選**にもつながる。

➤ 「初等教育資料」2020年9月号特集Ⅱを参照

1. 指導と評価の一体化のポイント

② 指導と評価を結び付ける視点

1. 内容のどの事項を題材の学習として位置付けるかを検討
 - それらの教材や活動を通して何を学ぶのか，という学習内容を焦点化するとともに，評価場面の精選にもつながる。
 - 「初等教育資料」2020年9月号特集Ⅱを参照
2. 思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素の明確化
 - その題材の学習において，子供の**思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素**を明確にし，「思考・判断・表現」の評価規準に位置付ける。

2. 題材の評価規準の作成 ～知識・技能～

【第1学年及び第2学年】 (1)歌唱の活動 知識

| | |
|-------------|---|
| 事項イ | 曲想と音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて 気付くこと 。 |
| 評価規準 (例) | 曲想と音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて 気付いている 。 |

学習指導要領の内容の事項について，そのまま文末を変えることで評価規準を作成可能

2. 題材の評価規準の作成 ～知識・技能～

【第1学年及び第2学年】 (1)歌唱の活動 知識

| | |
|-------------|---|
| 事項イ | 曲想と音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて 気付くこと 。 |
| 評価規準 (例) | 曲想と音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて 気付いている 。 |

学習指導要領の内容の事項について，そのまま文末を変えることで評価規準を作成可能

【第1学年及び第2学年】 (1)歌唱の活動 技能

| | |
|-------------|---|
| 事項ウ(ア) | 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を 身に付けること 。 (ア)範唱を聴いて歌ったり，階名で模唱したり暗唱したりする技能 |
| 評価規準 (例) | 思いに合った表現をするために必要な，範唱を聴いて歌ったり，階名で模唱したり暗唱したりする技能を 身に付けて歌っている 。 |

2. 題材の評価規準の作成 ～思考・判断・表現①～

参考資料 p.44

【第1学年及び第2学年】(1)歌唱の活動 思考・判断・表現

この文言は
評価規準
で用いない

事項ア

歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。

〔共通事項〕
ア

音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。

評価規準

(例)

音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。

【第1学年及び第2学年】(1)歌唱の活動 思考・判断・表現

音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。

旋律、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。

[解説 p.31-32の例示を想定]

【第1学年及び第2学年】(1)歌唱の活動 思考・判断・表現

音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。

旋律、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。

[解説 p.31-32の例示を想定]

その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる、主な音楽を形づくっている要素を適切に選択

2. 題材の評価規準の作成 ～主体的に学習に取り組む態度～

【第1学年及び第2学年】

この文言は評価
規準で用いない

参考資料 p.44～45

| | |
|-------------|--|
| 評価の観点の趣旨 | <p><u>音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</u></p> |
| 評価規準 (例) | <p>呼びかけ合って歌う表現に興味をもち、 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に<u>歌唱</u>の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>[解説 p.31-32の例示を想定]</p> |

2. 題材の評価規準の作成 ～主体的に学習に取り組む態度～

【第1学年及び第2学年】

| | |
|----------|---|
| 評価の観点の趣旨 | <p>音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> |
| 評価規準(例) | <p>呼びかけ合って歌う表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に<u>歌唱</u>の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>[解説 p.31-32の例示を想定]</p> |

この文言は評価規準で用いない

参考資料 p.44~45

その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、興味・関心をもたせたい事柄を挿入

1 評価場面の精選

日々の授業の中で子供の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要。

➤ **指導の改善に生かすことができる
評価の計画が重要**

3. 指導と評価の一体化の具体

- 1 評価場面の精選 ～全事例に共通して示した例～
 - 「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価について全員の学習状況を記録に残す場面を、**題材の最後の時間に設定。**

3. 指導と評価の一体化の具体

1 評価場面の精選 ～全事例に共通して示した例～

- 「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価について
全員の学習状況を記録に残す場面を，題材の最後の時間に設定。
- そこまでに継続して「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」について，題材を通して把握していくことを，指導と評価の計画の表内に矢印で示した。

3. 指導と評価の一体化の具体

「自らの学習を調整しようとする」とは…

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面。

3. 指導と評価の一体化の具体

「自らの学習を調整しようとする」とは…

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面。

- 各教科等の特質に応じて、児童の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要がある。(p.60)

| 次 | 時間 | ◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 | 知・技 | 思 | 能 |
|-----|-----|--|-----|---|---|
| 第1次 | 第1時 | ◎「とんび」の曲の特徴を捉えた表現を工夫して歌う。 ○「とんび」の歌詞の表す様子や旋律の反復など曲の特徴を捉える。 ・範唱を聴いて感じたことを発表する。 ・歌詞を読んだり、とんびが空を舞う写真を見たりしながら、歌詞の表す様子や雰囲気を感じ取る。 ・リズムや音程に気を付けて、楽譜を見ながら歌詞唱する。 ・曲の特徴的ところをワークシートに書いて発表する。 【児童の記述例】 ・ピンヨローのところは、とんびが鳴きながら飛んでいる様子を歌っていて面白い。 ・歌詞の表す様子を思い浮かべながら歌う。 ○「とんび」の曲の特徴を捉えて表現を工夫する。 ・第3フレーズ(9～12小節)の「ピンヨロー」の部分について、とんびが鳴きながら飛ぶ様子や、旋律の反復などの特徴を捉えて表現を工夫する。 【児童の工夫例】 ・とんびが鳴きながら近づいてきて、去っていく様子を表したいから、前半2小節は <i>f</i> で後半2小節は <i>p</i> で歌おう。 ・第1時で学習した表現を生かして、全員で「とんび」を歌う。 | | | |
| | 第2時 | ○旋律、フレーズ、反復、変化などをよりどころにして、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。 ・前時を振り返り、第3フレーズの「ピンヨロー」の部分について表現を工夫して歌う。 ・歌いながら、旋律の動きに合わせて手を動かす。 ・歌いながら第1、2、4フレーズの旋律の反復や、第3フレーズでの変化について気付いたことをワークシートに書く(第1フレーズ: 1～4小節/第2フレーズ: 5～8小節/第4フレーズ: 13～16小節)。 【児童の記述例】 ・1節目と2節目は上がり下がりする旋律の動きで、とんびがゆったり飛んでいる様子を表している。 ・1節目と2節目の旋律の動きがよく似ているけれど、3節目は全然違う。 ○「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。 ・第1、2、4フレーズと第3フレーズの動きの違いに着目して考えたり歌ったりする。 【児童の工夫例】 ・1、2、4節目では旋律の音が上がるときクレシェンド、下がるときデクレシェンドすると、とんびがゆったりと飛んでいる様子が伝わるかな。 ・3節目は他の部分と違って、とんびの鳴いている様子を表せるように、遠くまで響くような歌い方で歌えるようにしよう。 ○第1～2時で学習したことを生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。 | | | |
| 第2次 | 第3時 | ◎「エーデルワイス」の曲の特徴を捉えた表現を工夫してリコーダーを演奏する。 ○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーで旋律を演奏する。 ・旋律の特徴を捉えながら、リコーダーの楽譜を聴く。 ・3拍子の拍のまとまりを捉えて体を動かしたり、楽譜を見ながら階名唱をしたりする。 ・範奏を聴いたり楽譜を見たりしながら、リコーダーで旋律を演奏する。 ○運指や音色に気を付けてリコーダーを演奏する。 ・運指に気を付けて曲全体を演奏する。 ・音色や響きに気を付けて、適切な息の強さやタンギングで演奏する。 | | | |
| | 第4時 | ○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーの表現を工夫する。 ・「とんび」での学習を振り返りながら、「エーデルワイス」の曲の特徴への気付きを深める。 【児童の記述例】 ・前半、上がって下がる旋律が反復されるところが「とんび」に似ている。 ・3節目の出だしははずんだリズムに変わって、生き生きとした感じになる。 ・第3フレーズ(17～24小節)について、曲想の変化を捉えて表現を工夫する。 【児童の工夫例】 ・2節目までは、4小節の旋律のまとまりをなめらかに吹きたい。 ・3節目は生き生きとした感じが伝わるように、タンギングを覚えてみよう。 | | | |
| | 第5時 | ○前時までの学習を基に、グループごとに、「エーデルワイス」の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図に合った表現をするために必要な、リコーダーの演奏の仕方に関する知識と技能を身に付けてリコーダーを演奏する。 ・第2フレーズ(9～16小節)が再び現れるという反復など、音楽の仕組みを捉えて表現を工夫する。 【児童の工夫例】 ・1、2、4節目はなめらかに吹けるように、息の使い方に気を付けて演奏しよう。 ・3節目ははずむような感じだから、他の部分よりもタンギングをはっきりさせて吹けるようにしよう。 ・旋律の動きにふさわしい息の強さやタンギングに気を付けて演奏する。 ○グループごとに、表現を工夫した「エーデルワイス」の演奏を発表する。 ・工夫した点を紹介しながら発表する。 ・各グループの発表を聴き、工夫が表れていたところについて話し合ったり、その工夫を取り入れて全体で演奏したりする。 | | | |

| | | | | | |
|-----|---|--|--|--|----------------------------|
| 第3時 | ◎「エーデルワイス」の曲の特徴を捉えた表現を工夫してリコーダーを演奏する。 ○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーで旋律を演奏する。 ・旋律の特徴を捉えながら、リコーダーの楽譜を聴く。 ・3拍子の拍のまとまりを捉えて体を動かしたり、楽譜を見ながら階名唱をしたりする。 ・範奏を聴いたり楽譜を見たりしながら、リコーダーで旋律を演奏する。 ○運指や音色に気を付けてリコーダーを演奏する。 ・運指に気を付けて曲全体を演奏する。 ・音色や響きに気を付けて、適切な息の強さやタンギングで演奏する。 | | | | |
| 第4時 | ○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーの表現を工夫する。 ・「とんび」での学習を振り返りながら、「エーデルワイス」の曲の特徴への気付きを深める。 【児童の記述例】 ・前半、上がって下がる旋律が反復されるところが「とんび」に似ている。 ・3節目の出だしははずんだリズムに変わって、生き生きとした感じになる。 ・第3フレーズ(17～24小節)について、曲想の変化を捉えて表現を工夫する。 【児童の工夫例】 ・2節目までは、4小節の旋律のまとまりをなめらかに吹きたい。 ・3節目は生き生きとした感じが伝わるように、タンギングを覚えてみよう。 | | | | ② 記述・発言 |
| 第5時 | ○前時までの学習を基に、グループごとに、「エーデルワイス」の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図に合った表現をするために必要な、リコーダーの演奏の仕方に関する知識と技能を身に付けてリコーダーを演奏する。 ・第2フレーズ(9～16小節)が再び現れるという反復など、音楽の仕組みを捉えて表現を工夫する。 【児童の工夫例】 ・1、2、4節目はなめらかに吹けるように、息の使い方に気を付けて演奏しよう。 ・3節目ははずむような感じだから、他の部分よりもタンギングをはっきりさせて吹けるようにしよう。 ・旋律の動きにふさわしい息の強さやタンギングに気を付けて演奏する。 ○グループごとに、表現を工夫した「エーデルワイス」の演奏を発表する。 ・工夫した点を紹介しながら発表する。 ・各グループの発表を聴き、工夫が表れていたところについて話し合ったり、その工夫を取り入れて全体で演奏したりする。 | | | | ② 記述・発言・聴取 ③ 知技聴取・発言・記述 |

注:丸数字の評価規程が設定されていない授業においても、教師の指導改善や児童の学習改善に生かすために、児童の学習状況を記録することは重要である。

| 次 | 時間 | ⑥ねらい ○学習内容 ・学習活動 | 知・技 | 思 | 態 |
|-------|-------|--|-----|---|---|
| 第 1 次 | 第 1 時 | <p>◎「とんび」の曲の特徴を捉えた表現を工夫して歌う。</p> <p>○「とんび」の歌詞の表す様子や旋律の反復など曲の特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴いて感じたことを発表する。 ・ 歌詞を読んだり、とんびが空を舞う写真を見たりしながら、歌詞の表す様子や雰囲気を感じ取る。 ・ リズムや音程に気を付けて、楽譜を見ながら歌詞唱する。 ・ 曲の特徴的ところをワークシートに書いて発表する。 <p>【児童の記述例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ビンヨローのところは、とんびが鳴きながら飛んでいる様子を歌っていて面白い。 ・ 歌詞の表す様子を思い浮かべながら歌う。 <p>○「とんび」の曲の特徴を捉えて表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 3 フレーズ（9～12 小節）の「ビンヨロー」の部分について、とんびが鳴きながら飛ぶ様子や、旋律の反復などの特徴を捉えて表現を工夫する。 <p>【児童の工夫例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とんびが鳴きながら近づいてきて、去っていく様子を表したいから、前半 2 小節は <i>f</i> で後半 2 小節は <i>p</i> で歌おう。 ・ 第 1 時で学習した表現を生かして、全員で「とんび」を歌う。 | | | |
| | 第 2 時 | <p>○旋律、フレーズ、反復、変化などをよりどころにして、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時を振り返り、第 3 フレーズの「ビンヨロー」の部分について表現を工夫して歌う。 ・ 歌いながら、旋律の動きに合わせて手を動かす。 ・ 歌いながら第 1、2、4 フレーズの旋律の反復や、第 3 フレーズでの変化について気付いたことをワークシートに書く（第 1 フレーズ：1～4 小節／第 2 フレーズ：5～8 小節／第 4 フレーズ：13～16 小節）。 <p>【児童の記述例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 段目と 2 段目は上がり下がりする旋律の動きで、とんびがゆったり飛んでいる様子を表している。 ・ 1 段目と 2 段目の旋律の動きがよく似ているけれど、3 段目は全然違う。 <p>○「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1、2、4 フレーズと第 3 フレーズの動きの違いに着目して考えたり歌ったりする。 <p>【児童の工夫例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2、4 段目では旋律の音が上がるときクレシェンド、下がるときデクレシェンドすると、とんびがゆったりと飛んでいる様子が伝わるかな。 ・ 3 段目は他の部分と違って、とんびの鳴いている様子を表せるように、遠くまで響くような歌い方で歌えるようにしよう。 <p>○第 1～2 時で学習したことを生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技術を身に付けて歌う。</p> | | | |

② 記述・発言

① 記述・発言・聴取

① 採聴取

| | | | | | |
|-------|-------|---|--|--|--|
| 第 2 次 | 第 3 時 | <p>◎「エーデルワイス」の曲の特徴を捉えた表現を工夫してリコーダーを演奏する。</p> <p>○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーで旋律を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律の特徴を捉えながら、リコーダーの楽譜を聴く。 ・ 3 拍子の拍のまとまりを捉えて体を動かしたり、楽譜を見ながら階名唱をしたりする。 ・ 範奏を聴いたり楽譜を見たりしながら、リコーダーで旋律を演奏する。 <p>○運指や音色に気を付けてリコーダーを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運指に気を付けて曲全体を演奏する。 ・ 音色や響きに気を付けて、適切な息の強さやタンギングで演奏する。 | | | |
| | 第 4 時 | <p>○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーの表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「とんび」での学習を振り返りながら、「エーデルワイス」の曲の特徴への気付きを深める。 <p>【児童の記述例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前半、上がって下がる旋律が反復されるところが「とんび」に似ている。 ・ 3 段目の出だしははずんだリズムに変わって、生き生きとした感じになる。 ・ 第 3 フレーズ（17～24 小節）について、曲想の変化を捉えて表現を工夫する。 <p>【児童の工夫例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 段目までは、4 小節の旋律のまとまりをなめらかに吹きたい。 ・ 3 段目は生き生きとした感じが伝わるように、タンギングを覚えてみよう。 | | | |
| | 第 5 時 | <p>○前時までの学習を基に、グループごとに、「エーデルワイス」の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図に合った表現をするために必要な、リコーダーの演奏の仕方に関する知識と技術を身に付けてリコーダーを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 フレーズ（9～16 小節）が再び現れるという反復など、音楽の仕組みを捉えて表現を工夫する。 <p>【児童の工夫例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2、4 段目はなめらかに吹けるように、息の使い方に気を付けて演奏しよう。 ・ 3 段目ははずむような感じだから、他の部分よりもタンギングをはっきりさせて吹けるようにしよう。 ・ 旋律の動きにふさわしい息の強さやタンギングに気を付けて演奏する。 <p>○グループごとに、表現を工夫した「エーデルワイス」の演奏を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工夫した点を紹介しながら発表する。 ・ 各グループの発表を聴き、工夫が表れていたところについて話し合ったり、その工夫を取り入れて全体で演奏したりする。 | | | |

注：丸数字の評価規程が設定されていない授業においても、教師の指導改善や児童の学習改善に生かすために、児童の学習状況を記録することは重要である。

1 評価場面の精選 ～事例 1 に見る例(1)～

◆ 関連性のある事項に関する評価を統合

① **歌唱**の「知識」と**器楽**の「知識」の評価を統合

- 知識の事項の**「曲想と音楽の構造などとの関わり」**という共通する内容同士を結び付けて題材構想を行う。

1 評価場面の精選 ～事例 1 に見る例(1)～

◆ 関連性のある事項に関する評価を統合

① 歌唱の「知識」と器楽の「知識」の評価を統合

- 知識の事項の「曲想と音楽の構造などとの関わり」という共通する内容同士を結び付けて題材構想を行う。

② 器楽の事項イ(イ)と事項ウ(イ)の評価を統合

- 楽器の音色や響きと演奏の仕方に関する知識と技能を一体的に見る。

1 評価場面の精選 ～事例1に見る例(2)～

- ◆ すでに習得している技能を生かして活動する場合には、**技能の評価の対象としない**という考え方も可能。

1 評価場面の精選 ～事例 1 に見る例(2)～

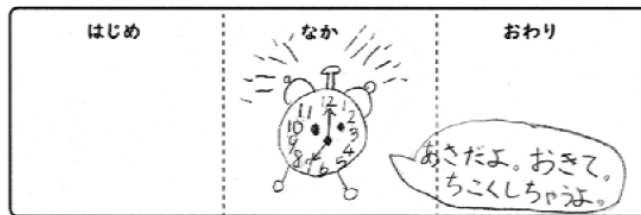
- ◆ すでに習得している技能を生かして活動する場合には、技能の評価の対象としないという考え方も可能。

【音楽づくりにおける評価場面の精選：事例 3】

- 音楽づくり(ア)及び(イ)の内容のまとまりとそのつながりに配慮して題材を構想するとともに、評価を計画する。
- 活動として行うことではなく、**学習として位置付ける**ことを吟味する。

2 評価方法の工夫と指導の改善

- ◆ 低学年における「知識」の評価方法（事例2）
 - 行動観察，発言内容，表情観察，ワークシートといった多角的な評価方法を採用。
 - 体の動き，発言，言葉や絵など得意な表現方法があることに留意し，総合的に判断。（p.69）



2 評価方法の工夫と指導の改善

◆ 音楽づくりにおける評価（事例2・3）

- つくった音楽を**演奏する技能**について評価するものではないことに留意。（事例2, p.71）

2 評価方法の工夫と指導の改善



- つくった音楽から思いや意図を見取ることができない場合、教師が意図を尋ねるなどして、**子供が思いや意図をもったり、ふくらませたり、明確にしたりすることができるよう、働きかけることが不可欠。**
(事例 3, p.78~79)

3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

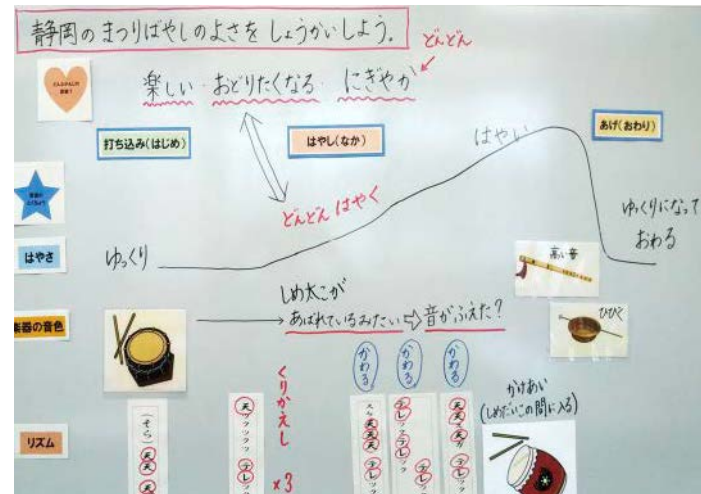
◆ 見取りのポイント

- 「知識・技能」や、「思考・判断・表現」の状況に課題があった場合には、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」について、どちらに要因があるかを確認し、適切な働きかけをしていく。
- 題材を通じて継続的に見取っていく。
観察を中心に把握しながら、発言やワークシートの記述も加味。

3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

◆ 指導の改善の具体

- ① めあての確認
- ② 既習の内容の活用
- ③ 協働的な学習を生かす



3 主体的に学習に取り組む態度：指導の改善の具体

① めあての確認

- 低学年や中学年では、学習のめあてを教師が適切に提示し、それに向かって子供が自分なりに様々な工夫をしながら学んでいけるよう配慮。

3 主体的に学習に取り組む態度：指導の改善の具体

① めあての確認

- 低学年や中学年では、学習のめあてを教師が適切に提示し、それに向かって子供が自分なりに様々な工夫をしながら学んでいけるよう配慮。
- 子供が見通しをもてるよう、どの音楽を形づくっている要素をよりどころとしながら思考・判断していけばよいかを想定しておく。

3 主体的に学習に取り組む態度：指導の改善の具体

② 既習の内容の活用

- 子供に前時までのワークシートの記述や板書の内容を確認させ、考えるよう促す。
 - 題材の前時までの学習はもちろんのこと、**これまでの音楽科の学習を振り返らせ、活用できるよう促す。**

3 主体的に学習に取り組む態度：指導の改善の具体

③ 協働的な学習を生かす

- 他の子供との協働的な学習から、子供たちが自らの学習の調整に向かうことができるよう働きかける。
(p.83～86)
- 「十分満足できる」状況（A）と判断される子供の学習状況をモデルとして紹介することも有効。
(p.83)

- 3 主体的に学習に取り組む態度：指導の改善の具体
 - 学習の調整に向けた取組のプロセスには児童一人一人の特性があることから、**特定の型に沿った学習の進め方を一律に指導することのないよう配慮が必要。**（p.83）
 - 一人一人の子供が、自ら様々に学び方を工夫していく中で、自分に合った学習の調整の仕方を見いだせるよう、教師は粘り強く見守っていくことも大切。

新学習指導要領に対応した学習評価 (小学校 音楽科)

文化庁

参事官（芸術文化担当）付教科調査官

文部科学省

初等中等教育局 教育課程課教科調査官

志民 一成